



外国出張報告書

平成 27 年 11 月 2 日

1. 出張国名 ラオス、タイ
2. 出張月 平成 27 年 9 月～10 月
3. 出張目的 インドシナ半島地域における家畜飼料基盤の確立（新品種登録に関する業務を含む）：C

4. 成果の概要

畜産研究センターでのビール粕を用いた牛への給与試験の結果、ビール粕給与によって増体量の増加が認められた。ナムアン村での牛の舎飼い実証試験のため 5 軒の農家を選定した。舎飼い実証試験の給与飼料としては稲ワラ、キャッサバ残渣、ビール粕を用いることとした。国立農林研究所・畜産研究センター (NAFRI・LRC) においてトウモロコシサイレージの調製を行った。今後、同センターにおいてトウモロコシサイレージ、キャッサバ残渣、ビール粕を用いた肥育試験を行うこととなった。ラオス国立大学において継続中のキャッサバのサイレージ化に関する実験では、タンパク質源として酵母を添加した場合においても良好な発酵をすることが明らかになった。タイにおける新品種 **Br203** の品種登録については、タイ国畜産開発局 (DLD) 関係者から農業局に申請書が提出され、現在審査待ちである。